

「栞」

創業者として他界する間際まで会社を愛し、社員との毎日会うことを喜びとして生き抜いた、「会社が大好きだった会長」への恩返しに、「お別れ会」として社葬を執り行わさせていただきます。

平成30年9月8日に他界し、11日に密葬を行いました。

その折に本日の「お別れ会」をご案内させていただいたのは、皆様を想う故人の遺志を表現したものと解釈頂ければ幸いです。

中学校を卒業してから就職して、定時制高校へ通い、営林署の事務方に就くような「努力家」であり、職場の中で、一生涯の素晴らしいパートナーとなる妻、「久仁子」との出会い、結婚。最高の時を木曾で過ごしたものと思います。

我々、子供たちも生まれ、人生の親友である「半田行則さん」との出会いも、我が子を養子に出すほどの兄弟関係を越えたものでありました。

相手に対する思いやりの心を象徴する出来事であり、その後50年以上の家族付き合いには、私たち兄弟も父のおかげだと感謝しています。

半世紀前に中津川の地で材木店の創業を手伝い、我々も仕事を通じ背中を見て育ちました。

34年前に広和木材を創業してからも毎日頑張る姿は、まさしく「仕事大好き人間」そのもので、我々社員も見習うべき指導者であったことは、皆様も知るところでしょう。

平成に入り「中津川ライオンズクラブ」に入会後は、地域のボランティア活動にも積極的に参加し、クラブの皆様にも良いお付き合いを頂きましたことに感謝申し上げます。

ご縁あって移り住んだ手賀野会所ヶ丘の地域でも、33年前に「会所ヶ丘夏祭り」を皆さんと立ち上げたことにより、地域の「ふれあい」を深めることも出来ました。

地域の皆さんにも大変お世話になりましたことにも感謝致します。

任事的なことからは、木材業界関係の皆様、協力業者の方々、メーカー、商社など仕入れ関係の皆様などにも感謝申し上げます。

「会社の二階に住み毎日社員の笑顔を見たい」という父の想いを支えてくれた母には、誠心誠意尽くしてくれたことに心より感謝しています。

皆様には、今後も変わらぬお付き合いを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

お越しいただきました皆様のご多幸をご祈念申し上げ、故人になりかわってのお礼の言葉と致します。

喪主 倉野 仁